

【山崎名誉主宰の俳句】

秋から冬へ

山崎 聰

雨降りつづき著莪の花著莪の花
忘却の彼方にありて夏の雲
山暮れてそろそろ河鹿鳴くころか
敗戦日月下うかうか生き延びて
大声で呼ばれふり向く螢の夜
もうすこしがんばってみよう夏満月
真暗がり誰も知らない蛇の穴
町に出てすこし歩きぬ月の夜
めずらしきことと思いぬ屋根に雪
新宿も銀座もさむき秋立つ日